

## 小学校学習指導要領にみるバレーボール型ゲームの導入をめぐる

朽堀 申二\*

Discussion on Introduction of Volleyball Style Game in the Courses of  
Study for Elementary School Education

Shinji TOCHIBORI\*

Due to the recent amendments of the Courses of Study for elementary school, soft volleyball, along with softball, is added to constitute a part of the ball game exercises.

Volleyball became a teaching material for the first time when the amendments of Physical Exercises Teaching Guidelines adopted volleyball as one of twelve ball games in May 27, 1926.

This paper is to describe the process and to search remaining problems of the introduction of volleyball style game into the guidelines in Japan for the first time after World War II.

この度の小学校学習指導要領の改善にともなう、ソフトバレーボールが新たに「ソフトボール又はソフトバレーボール」を加えてボール運動を構成することになった。

明治五年日本における学制公布以来、運動教材として遊戯、競争遊戯、球戯的種目、競走遊戯、競争を主とする遊戯、球技、ボール運動、ボール遊び、ボールゲームなどといったくりの中で多くの球技種目が取り上げられてきた。

しかし、バレーボールに関しては大正15年5月27日「学校体操教授要目の改正」により球技12種目の一つにヴァレーボールが初めて取り入れられたのである。資料1は大正2年の要目と比較しその分類の違いと球技12種目の学年別配当が示されている。

一方、課外活動としてのバレーボールは大正14年兵庫県立姫路高等女子学校主催による第一回小学校女児排球大会が開催されていたし、昭和2年には飾磨小学校主催兵庫県下小学校女児排球大会がいずれも15点3回ゲームとして行われた記録がある。藤沢バレーボール協会が昨年12月発刊した「写真で見る藤沢バレーの歴史」の中に16人制のバレーボールのゲーム風景があり、サーブする選手に真剣な視線を送っている貴重な写真が掲載されていた。これは大正13年の藤沢高等小学校の校庭でバレーボールに興ずる小学生の姿であった。

当時、小学校の教授要目にバレーボールを加えなくてはならない社会的、時代的背景をうかがうことができるのである。小学校女児排球大会は広島県、岡山県など全国的に開催されていたのである。

## 1. 今回の小学校体育科改訂の要点

1) 生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していくことの基礎を培う観点を重視し、児童の発達の特性を考慮した運動に仲間と豊かにかかわりながら取り組むことによって、各種の運動に親しみ運動が好きになるようにすること。

2) 心と体を一体としてとらえ、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、自分や仲間の体の状態に気付き、体の調子を整えることができるようにするとともに、体力の向上の内容を重点化し、自ら進んで体力を高めることができるようにすること。

3) 自分やチームの力に合った運動の課題をもち、その課題の解決を目指して活動を考えたり工夫したりすることができるようにすること。

4) 個に応じた指導を充実するとともに創意工夫を生かした特色ある授業づくりを進めるために学年や地域及び学校の実態に応じて運動を弾力的に取り上げることができるようにすること。

5) 保健については、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培うため、健康の大切さを認識し、健康なライフスタイルを確立する観点に立って、内容の改善を図ること。

以上の要点に示されている運動やスポーツを豊かに実践することによる仲間とのかかわり、心と体を一体のものとしてとらえ、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、自分や仲間の体の状態に気付き、調整し、交流することをねらいとした体づくり運動の導入、運動課題とその解決を目指す学び方を学ばせていくこと、そして特色ある授業づくりのために学年や地域、学校の実態に応じた運動を弾力的に取り上げていくといったことが示されているのである。

\*東京女子体育大学  
筑波大学名誉教授

## 2. ゲーム及びボール運動の改訂の要点

体育科の目標及び内容の改訂の要点は、次のとおりである。

小学校1学年から4学年まではゲームとして、5・6学年はボール運動として示されている

### ○ゲーム

「ゲーム」については、第1学年・第2学年では、従前の「ボール遊び」を「ボールゲーム」に改めるとともに、「ボールゲーム」については、2学年にわたって指導することを「内容の取扱い」に示した。

第3学年・第4学年では、従前は「ポートボール」、「ラインサッカー」及び「ハンドベースボール」と示されていたものを、地域や学校の実態に応じて運動の取上げ方を弾力的に行うことができるように、「バスケットボール型ゲーム」、「サッカー型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」と改めた。また、「地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができる」ことを「内容の取扱い」に示した。

### ○ボール運動

従前の「バスケットボール」、「サッカー」に加えて、新たに「ソフトボール又はソフトバレーボール」を加えて構成した。

この「ソフトボール又はソフトバレーボール」については、「地域や学校の実態によっては扱わないことができる」ことを「内容の取扱い」に示した。

また、「ハンドボールなどその他のボール運動を加えて指導することができる」ことを「内容の取扱い」に示した。

## 3. 改訂小学校学習指導要領

ここではゲームおよびボール運動を中心に改訂された学習指導要領を示すこととする。

### 1. 内容構成の考え方

#### (1) 運動領域

体育科の領域構成は、次表のとおりである。

学年	1・2	3・3	5・6
領 域	ア) 基本の運動  イ) ゲーム		ウ) 体づくり運動
			エ) 器械運動
			オ) 陸上運動
			カ) 水 泳
			キ) ボール運動
			ク) 表現運動 ケ) 保健

## 2. 各領域の内容

### (1) 運動領域の内容

ア ウ. エ. オ. カ. ク. ケの内容は省く。

#### イ ゲーム

ゲームは、運動をしたいという欲求から成立した「運動遊び」であり、この点において、基本の運動と同じ考え方に立っている。「基本の運動」と異なる「ゲーム」の特性としては、主として集団対集団で競い合い、仲間と力を合わせることにある。そのため、仲間と協力してゲームを楽しむことの工夫や楽しいゲームを作り上げることが、児童にとって重要な課題となってくる。集団で勝敗を競うゲームの楽しみ方には、規則を工夫したり、作戦を工夫したりすることと、技能を身に付けることがある。しかし、低学年のゲームでは、心身の発達の状況から、特定の技能を身に付けてゲームを楽しみながら課題を達成することは困難といえる。したがって、簡単な規則をみんなで決めて、それを守って楽しくゲームができるようにする。中学年では、規則や作戦を工夫することを重視しながら、簡単な技能を身に付けて、ゲームを一層楽しくしていくことが学習の中心となる。また、公正に行動する態度、勝敗の結果をめぐる正しい態度や行動がとれるようにすることが大切である。

ゲームの内容としては、低学年ではボールゲーム及び鬼遊びを示した。なお、従前基本の運動の用具を操作する運動の中で取り扱っていたボール遊びは、ボールゲームと一体化した方が学習の効果が上がるという視点から、ボールゲームの一部として取り扱うこととしている。

中学年では、バスケットボール型ゲーム、サッカー型ゲーム及びベースボール型ゲームを示した。従来の特定種目の内容の示し方から「○○型ゲーム」に変えたのは、ボールゲームそれぞれの「○○型ゲーム」の特性に応じた学習が効果的に行われるようにするため、また、児童の実態に応じてより弾力的な扱いができるようにするためである。さらに、地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができることとした。

#### キ ボール運動

ボール運動は、自分のチームの特徴に応じた作戦を立ててゲームを行い、得点を競い合う集団的な運動である。

小学校では各種のボール運動の中から、ゴール型のゲームとしてバスケットボール及びサッカー、ベースボール型のゲームとしてソフトボール、ネット型のゲームとしてソフトバレーボールを取り上げている。ゴール型は、コート内で攻守が入り交じり、手や足などを使って攻防を組み立て、一定時間内に得点を競い合うこと、ベースボール型は、攻守を規則的に交替し合い、一定回数内で得点を競い合うこと、ネット型は、ネットに区切られたコートの中で攻防を組み立て、一定の得点に早く達することを競い合うことを課題としたゲームであり、それぞれの特性が十分に理解

される必要がある。

ボール運動の学習では、互いに協力し、役割を分担して計画的に練習を行い、技能を身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心となる。また、ルールやマナーを守り、勝敗に対して正しい態度がとれるようにすることや仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することができるようにすることが大切である。

なお、施設・設備の条件等、地域や学校の実態によっては、ソフトボール又はソフトバレーボールは取り扱わないことができることとするとともに、ハンドボールなどその他のボール運動を加えて指導することができることとした。

#### 4. 改訂学習指導要領の各学年の目標及び内容 (10. 12. 17 発行)

(ここでは目標とゲーム及びボール運動に関する項のみについて示すこととする)

##### 1) 第1学年・第2学年の目標及び内容

###### 1 目標

- (1) 基本の運動及びゲームを簡単なきまりや活動を工夫して楽しくできることとするとともに、体力を養う。
- (2) だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して運動をする態度を育てる。

###### B ゲーム

###### (1) 技能の内容

- (1) ボールゲーム及び鬼遊びについて、易しい遊び方を身に付け、みんなでゲームが楽しくできるようにする。

###### a ボールゲーム

いろいろなボールで、ボールをつく、転がす、投げる、当てる、捕らえる、蹴る、止めるなどをして、簡単な規則をもとにボールゲームが楽しくできるようにする。

###### ア ボール投げゲーム

ボールを転がす、投げる、当てる、避ける、捕らえるなどをして楽しくゲームをする。

[ゲームの例]

- (ア) いろいろなボールで投げたりついたりしながらのキャッチボールや簡単なゲームなど
- (イ) ボールを転がしたり、投げたりする的当てゲーム
- (ウ) 的当てゲームの発展したシュートゲーム
- (エ) ボールを転がしたり、投げたりするドッジボール

###### イ ボール蹴りゲーム

ボールを蹴ったり、止めたりして楽しくゲームをする。

[ゲームの例]

- (ア) いろいろなボールで蹴ったり、止めたりしての蹴り合いや簡単なゲームなど
- (イ) ボールを蹴っての的当てゲーム
- (ウ) 的当てゲームの発展したシュートゲーム
- (エ) ボールを蹴ってのベースボール

###### b 鬼遊び

追いかける、逃げるなどをして、簡単な規則をもとに鬼遊びが楽しくできるようにする。

ア 一定の区域内で、追いかける、逃げるなどをして楽しく鬼遊びをする。

[ゲームの例]

- ・一人鬼      ・二人鬼

イ 場や用具を工夫し、追いかける、逃げるなどをして楽しく鬼遊びをする。

[ゲームの例]

- ・宝取り鬼      ・ボール遊び鬼

###### (2) 態度の内容

- (2) 規則を守り、互いに仲よくゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。

ア 簡単な約束を決め、それを守り、互いに仲よくゲームをする。

(ア) ゲームの規則や方法を知り、教え合ったり、助け合ったりしてゲームをする。

(イ) 文句を言ったり、命令したりしないで仲よくゲームをする。

(ウ) 分担を決め、ゲームの場所の整理、用具などの準備や後始末をする。

(エ) はじめとおわりのあいさつをする。

イ 勝敗を素直に認める。

(ア) 勝ったチーム、負けたチームそれぞれの健闘をたたえる。

(イ) 負けたとき、その責任を失敗した友達や審判に転嫁しない。

ウ 健康・安全に留意して運動をする。

(ア) ゲームの場所の危険物を取り除いたり、用具の安全を確かめたりしてゲームをする。運動後、体を清潔にする。

###### (3) 学び方の内容

- (3) ゲームを楽しむための簡単な規則を工夫することができるようにする。

ア みんなで規則を決め、それを守ってゲームをする。

イ ゲームの場や得点の方法など規則を工夫して楽しくゲームをする。

## 2) 第3学年・第4学年の目標及び内容

## 1 目 標

- (1) 各種の運動の課題をもち、活動を工夫して運動を楽しくできるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体力を養う。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意して最後まで努力する態度を育てる。

- (3) 健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

## B ゲーム

## (1) 技能の内容

- (1) バスケットボール型ゲーム、サッカー型ゲーム及びベースボール型ゲームについて、友達と規則を工夫し、簡単な技能を身に付け、ゲームが楽しくできるようにする。

## a バスケットボール型ゲーム

コート内で攻守入り交じってボールを手で扱い、簡単な技能を身に付けて、ゲームが楽しくできるようにする。

ア ドリブルやパスをして攻め、早くもどって守るようなゲームをする。

イ 空いているところへドリブルをしたり、方向を決めてパスをしてボールをつないだり、シュートをしたるなどの簡単な技能を身に付ける。

[ゲームの例]

(ア) ゴールの広さ、高さなどの条件や場を工夫したゲーム

## b サッカー型ゲーム

コート内で攻守入り交じってボールを主に足で扱い、簡単な技能を身に付けて、ゲームが楽しくできるようにする。

ア ドリブルやパスをつないで攻め、パスの方向に動いてゴールを守るようなゲームをする。

イ 空いているところへドリブルをしたり、思いきりシュートをしたるなどの簡単な技能を身に付ける。

[ゲームの例]

(ア) チームの人数や場を工夫したゲーム

## c ベースボール型ゲーム

攻守を交替し、投げる、打つ、捕るなどをしながら、簡単な技能を身に付けて、ゲームが楽しくできるようにする。

ア 工夫した用具などで打ったり、早くボールを捕って投げたりするようなゲームをする。

イ 投げ方、打ち方、捕り方、進塁の仕方などの簡単な

技能を身に付ける。

[ゲームの例]

(ア) 手やラケット、バットなどで打ったり、止まっているボールを打ったりするゲーム

(イ) ボールを蹴ってのゲーム

## (2) 態度の内容

- (2) 規則を守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。

ア みんなで規則をつくり、それを守り、互いに協力してゲームをする。

(ア) 規則を守り、審判の判定に従って公正にゲームをする。

(イ) ゲームの作戦や練習の仕方を決め、協力して練習やゲームをする。

(ウ) チームにおける互いの役割を決め、最後まで力いっぱい練習やゲームをする。

(エ) 互いに役割を分担し、ゲームをする場所の整備、用具の準備や後始末をする。

(オ) ゲームの開始前、終了後に、相手チームに整列してあいさつをする。

イ 勝敗を素直に認める。

(ア) 味方の失敗を許し合い、失敗した友達を励まし合ってゲームをする。

(イ) 審判の判定を素直に認める。

## (3) 学び方の内容

- (3) チームの課題をもち、簡単なゲームを工夫することができるようにする。

ア ルールや活動の場を選んだり、工夫したりしてゲームをする。

イ チームで簡単な作戦を立てて、楽しくゲームをする。

## 3) 第5学年・第6学年の目標及び内容

## 1 目 標

- (1) 各種の運動の課題をもち、活動を工夫して計画的に行うことによって、その運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子を整え、体力を高める。

(2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を育てる。

(3) けがの防止、心の健康及び病気の予防について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

## E ボール運動

## (1) 技能の内容

(1) チームに適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、簡単な作戦を生かしてゲームができるようにする。

ア バスケットボール

イ サッカー

ウ ソフトボール又はソフトバレーボール

ア バスケットボール

攻守が入り交じって行うゲームの特性に応じて、チーム内の攻防の役割を分担し、パスやドリブルを使ってボールを選びシュートする技能や防御の仕方を身に付けてゲームをする。

(ア) 味方や相手の位置と距離に応じた的確なパスやドリブルをしたり、受けやすい位置に動いてボールを受け、味方にパスしたり、シュートしたりする。また、相手の攻撃を阻止するためのいろいろな防御の仕方を身に付ける。

(イ) 状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの技能を習得し、ボールを操作する。

(ウ) トラベリング、ダブルドリブルなどのいろいろなルールについて理解し、審判をする。

イ サッカー

攻守が入り交じって主に足を使って行うゲームの特性に応じて、チーム内の攻防の役割を分担し、パスやドリブルなどを使い、相手の守りをかわして攻撃する技能や防御の仕方を身に付けてゲームをする。

(ア) 攻守のポジションの動きを理解し、状況に応じてパスやドリブルなどを使ってボールを選びシュートする。また、相手の攻撃を阻止するためのいろいろな防御の仕方を身に付ける。

(イ) 状況に応じたパスやドリブル、シュートなどの技能を習得し、ボールを操作する。

(ウ) ハンドリング、プッシングなどのいろいろなルールについて理解し、審判をする。

ウ ソフトボール

攻守と守備を交替しながら行うゲームの特性に応じて、チーム内の攻防の役割を分担し、攻撃や守備の技能を身に付けてゲームをする。

(ア) 各ポジションの役割を理解し、バッティングや走塁の方法、ゴロやフライの捕球や送球の技能を身に付ける。

(イ) 三振やファウルなどのいろいろなルールを理解し、審判をする。

エ ソフトバレーボール

ネットをはさんで攻撃を組み立て、または防御を工夫してボールを打ち合うゲームの特性に応じて、防御から攻撃

への連係プレーを生かしたゲームをする。なお、ボールは軽くてやわらかいものを使用する。

(ア) 各ポジションの動きを理解し、両手や片手でボールを相手コートに落としたり、状況に応じてボールを操作したりする。

(イ) ホールディングやネットタッチなどのルールを理解し、審判をする。

## (2) 態度の内容

(2) 互いに協力し、役割を分担して練習やゲームができるようにする。また、勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。

ア ルールやマナーを守り、勝敗に対して正しい態度をとり、仲間とともにゲームの楽しさや喜びを共有する。

イ 互いに協力して活動の場をつくったり、用具の準備を行ったりして、安全に練習やゲームをする。

## (3) 学び方の内容

(3) 自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたり、ルールを工夫したりすることができるようにする。

ア 自分のチームの特徴を生かした作戦を立てる。

イ 人数やコートの大さきなどのルールを工夫したり、作戦を成功させるための練習を選んだり工夫したりして、計画的に練習やゲームを行うとともに、ゲームの運営をする。

## 5. 学習指導要領の改善に関する調査研究協力者の会合の発足

平成10年2月3日小学校、中学校及び高等学校の学習指導要領(体育、保健体育)の改善に関する調査研究協力者の会合が開催され、学習指導要領改善への取り組みがスタートしたのである。

小学校(体育)、中学校(保健体育)、高等学校(保健体育)の三つの部会とそのメンバーが決り、三つの部会から二人のメンバーが各々選出され運営委員会を構成することとなった。この度の調査研究協力者の会合の全体会、運営委員会及び高等学校部会の主査の役割を筆者が担当することになり、改善にともなう方向性、意図、方針、運営委員会での調整、教育課程審議会との意見交換、文部省との打合せや連絡、関係する様々な人達からの意見聴取と約2年間にわたって活動してきたのである。

小学校部会の委員の中に幸いバレーボールに造詣の深い武隈晃氏(鹿児島大)が選出されていた。新指導要領にソフトバレーボールが導入されたことには彼の力に負うことがあった。

平成元年3月15日に施行されている現行の学習指導要

領(資料2)にはバレーボールの文言は見当らない。このことから、日本バレーボール協会は平成2年から小学校教材としてバレーボールを取り入れてもらうための活動を展開した。

指導要領改善の度重なる討議の中では次のことがらが検討し合われたのである。(△、○、◇印は主張や意見の異なりを示す。)

△多くの競技団体からの教材としての導入の要求一つひとつに対応はできない

△教材としての運動種目は競技力向上を目論むものではない

△週休二日制導入によりゆとりをもったの日常生活を営むという方向と、教材を増すこととは逆行するのではないか。授業時数をどのように減らすかが課題である  
△教材として意味や価値があり、文化として定着し得ることができるか

以上のような議論が交される中で

○社会状況の多様化の傾向もあり、地域や学校の実態に応じて特色ある授業づくりが必要ではないかといった意見は少数であった。

しかしこの意見は多様化する社会、地域や学校の事態に応じて特色ある授業づくりの必要性の合意により平成10年6月23日の改訂学習指導要領案(第一次案)第5学年及び第6学年での内容の取扱(3)内容の「E ボール運動」の(1)については、地域や学校の実態に応じてソフトボール、ソフトバレーボール、ハンドボールなどその他の運動を加えて指導することができる。ということにつながったのである。(資料3参照)

ここにはじめてソフトバレーボールが登場したのである。このことと同時にボールゲームの特性論についての分類がなされ、ゲームの形式による区分として、「ポートボール」を「バスケットボール型ゲーム」、「ラインサッカー」を「サッカー型ゲーム」、「ハンドベースボール」を「ベースボール型ゲーム」に変更したのである。

## 6. 新たな議論の展開

提示された第一次案についてその理論的整合性、小・中・高を通しての系統性、発展性などに論点が集った。筆者は次の点を示摘し論じた。

○ゲームの形式による特性論についてはよいが、理論的には「テニス型=ネット型」や「ホッケー型」がありこれらの扱いはどうするのか

○心身のバランスのとれた発達を促すことに着目するなら、子どもたちがどのようにボールを扱うか、この扱い方による分類には「打球系球技」「投捕系球技」「蹴球系球技」に分けることができるが「打球系球技」の内容の充実が必要ではないのか

○地域や学校の実態に応じてより弾力的に運動が行える

ようにすることが大切ではないか

○中学校、高等学校でより選択の幅を広げることと、小学校での学習積み重ねとの整合性をどのようにもたせるか

これらのことから平成10年7月10日の第二次案の内容に新たな改善が示された。(資料4参照)

第一案では3・4学年の内容の取扱いで地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなど……指導することができる。とあり、5・6学年では、同じく内容の取扱いとして、地域や学校の実態に応じてソフトボール、ソフトバレーボール、ハンドボールなど……指導することができる。とあった扱いから、第二案の5・6学年の技能内容E ボール運動

(1) チームの実態に応じた課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、ルールを工夫したり、簡単な作戦を立てたりしてゲームができるようにする。ア. バスケットボール イ. サッカー ウ. ソフトボール又はソフトバレーボール、としての扱い方に大きな変化が示された。

バレーボール型ゲームを小学校の教材として取り入れるにはいくつかの条件が満たされていなければならないのである。

◇バレーボール型ゲームが小学生の発育発達から考えて教材として適切なものといえるか

◇実践的なバレーボール型ゲームの教材化の研究実践はどこまでなされているのか

◇安全に子どもたちがゲームを楽しむことのできる用具やボール、場所やルール等の工夫はどうであるか

学習指導要領改善を検討するこの会では、小学校教材としてふさわしいバレーボール型ゲームに作り上げるという教科教育的立場で論議を進展させていった。いくつかの競技団体からの行政的立場から競技力向上を目指して、運動種目導入の働きかけについては一線を画していたのである。

平成9年6月21日私たちのバレーボール学会として、ソフトバレーボールの教材化についての研究集会が早稲田大学で開催され、東京学芸大学永島教授を講師に迎えその取り組みに関する研究と東京学芸大学附属小学校でのワンドを取り入れたソフトバレーボールの研究実践発表があり、活発な議論が行われた。

永島教授の10gからのソフトバレーボールの試作にはじまり子どもたちの発達段階に合ったボールの適用、ルールの工夫、小学生に対する熱心なる指導者の取り組みが高い評価を博したのである。

これらの実績の積み重ねは多くの指導要領改善にとりくむ委員に教材として適切なものとしての理解を得る上で意味をもつことになった。

この第二次案は技能の内容、学び方の内容、態度の内容、中学校と高等学校との目標や扱い方、備考としての文言などからの検討、他教科とのかかわりをも視野にして、10年10月21日の第三次案へとつながるのである。ここではゲームやチームづくりの工夫やあり方が整理され、互いに

協力し、役割を分担して練習やゲームができるようにすることや、勝敗に対して正しい態度がとれるようにするとした学び方が示された。(資料 5 参照)

### 7. 今後バレーボール型ゲームソフトバレーボールをどう発展させるか

改訂学習指導要領第 3 学年及び第 4 学年のゲームについては、内容の取扱いで地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができる。とあり、第 5 学年及び第 6 学年にはボール運動の中にソフトボール又はソフトバレーボールが明示された。

しかしその内容の取扱いの中では、地域や学校の実態によっては、ソフトボール又はソフトバレーボールは扱わないことができることとし、ハンドボールなどその他の運動については加えて指導することができる。としている。

このことは地域社会におけるバレーボール活動の背景、小学校でのソフトバレーボールが仲間とのゲームを通して、多くの学びの内容・教育力が存在するという認識、加えて子どもたちがすぐにゲームを楽しめるエリアサービスと提供、とりわけ指導者集団への働きかけと協力が欠けまい。

平成 2 年ソフトバレーボール協会が設立され全国的に指導普及活動を展開してきた。一方学校教材としてのソフトバレーボールも多くの先行的実践研究が行なわれている。

平成 14 年新学習指導要領が施行されるのであるが、その移行は 12 年度から可能なのである。平成 11 年 7 月 17 日私共バレーボール学会は小学校でのソフトバレーボールに関する研究集会を開催した。筆者が指導要領改訂のねらいと

ソフトバレーボール導入についての基調を担当、永島教授がバレーボール教材の歴史的背景と学習教材としての理論的立場から講演、小学校での実践指導の立場から浜崎順子教諭(京都教育大学附属桃山小学校)による公開授業が行われた。当日は 10 g ごとに重量の異なるソフトバレーボールの展示、鉄製の重たかったボール、張ることに多くの時間を要したネットなどに代り、子ども一人で軽々運べるボールとワンタッチでセット可能なネットなど教材としての用具の開発にも注目が集まった。

子供たちが自らゲームを楽しめるバレーボール型ゲームの特性とは何か、学習の課題は、ゲームのやり方やルールをどう考えるか、課題達成の練習や役割とその分担は、自分たちでゲームの作戦をどのように立てるか、勝敗に対して互にフェアな態度をいかにとれるようにするか等、この機会に全国の多くの実践指導に当たっている方々からのご報告ご意見をお寄せいただき、共に斯界の発展に努力したいと願っています。

### 引用文献

- 1) 文部省：小学校学習指導要領，1988
- 2) 文部省：小学校学習指導要領，1998
- 3) 文部省：小学校学習指導要領解説，1999
- 4) 文部省：学校体操教授要目，1913
- 5) 文部省：学校体操教授要目の改正，1926
- 6) 枋堀申二：編者 バレーボールの学習指導と教材研究，不味堂，1999.
- 7) 枋堀申二：編者 楽しくできるバレーボールの指導，不味堂，1977.

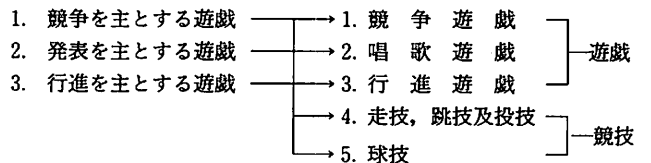
### 資料 1

大正 2 年の要目と今回の要目を比べると、遊戯から競技を分離し、走技、蹴技、投技および球技が分類されている点である。

その内容の比較は次のとおりである。

(大正 2 年要目)

(大正 15 年要目)



大正 15 年要目による球技 12 種目と学年配当

大正 15・5・27

	小学校		中学校		高等女学校
1 年	キックボール	1 年	ドッジボール (円形方形)	1 年	ドッジボール (円形方形)
2 年	対抗フットボール		ポートボール		ポートボール
3 年	円形ドッジボール		フットベースボール	2 年	キャプテンボール
	ポートボール	2 年	バスケットボール		バスケットボール
4 年	フットベースボール		ハンドボール	3 年	ハンドボール
	方形ドッジボール	3 年	プレーグラウンドボール		ヴァレーボール
5 年	コーナボール		アソシエーションフットボール		
	バスケットボール		ヴァレーボール		
6 年男	プレーグラウンドボール				
	アソシエーションフットボール				
	ヴァレーボール				
女	キャプテンボール				

## 資料2 現行学習指導要領（平成元年3月15日）

## 現行学習指導要領

## 第1 目標

適切な運動の経験と身近な生活における健康・安全についての理解を通して、運動に親しませるとともに健康の増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

## 第2 各学年の目標及び内容

## 〔第1学年及び第2学年〕

## 1 目標

- (1) 基本の運動及びゲームを楽しくできるようにするとともに、体力を養う。
- (2) だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して運動をする態度を育てる。

## 2 内容

## B ゲーム

- (1) ボール遊び及び鬼遊びについて、友達と簡単な規則を決め、みんなでゲームが楽しくできるようにする。
- (2) 規則を守り、互いに仲よくゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。

## 〔第3学年及び第4学年〕

## 1 目標

- (1) 各種の運動を楽しくできるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体力を養う。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意して最後まで努力する態度を育てる。

## 2 内容

## B ゲーム

- (1) ポートボール、ラインサッカー、及びハンドベースボールについて、友達と規則を工夫し、簡単な技能を身に付け、ゲームが楽しくできるようにする。
- (2) 規則を守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。

## 3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A 基本の運動」、「B ゲーム」及び「E 表現運動」に示す事項については、各学年で指導するものとする。なお、「B ゲーム」の(1)の運動については、各学年に分けて指導することができる。

## 〔第5学年及び第6学年〕

## 1 目標

- (1) 各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体力を高める。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。
- (3) 体の発育と心の発達、けがの防止、病気の予防及び健康な生活について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む能力と態度を育てる。

## 2 内容

## E ボール運動

- (1) 次の運動の技能を身に付け、ルールを工夫したり、簡単な作戦を立てたりしてゲームができるようにする。
  - ア バスケットボール
  - イ サッカー
- (2) 互いに協力し、役割を分担し、勝敗の原因を考え、計画的に練習やゲームができるようにする。

## 3 内容の取扱い

- (2) 内容の「E ボール運動」の(1)については、地域や学校の実態に応じてソフトボールを加えて指導することができる。

## 資料3 学習指導要領改善第一次案（平成10年6月23日）

## 第1 目標

適切な運動の経験と健康・安全についての実践的な理解を通して、運動や健康・安全に対する関心を高め、仲間と仲よく進んで運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進と体の調子をを整え体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

## 第2 各学年の目標及び内容

## 〔第1学年及び第2学年〕

## 1 目標

- (1) 基本の運動及びゲームを簡単なきまりや活動を工夫して楽しくできるようにするとともに、体の調子をを整え体力を養う。
- (2) だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して運動をする態度を育てる。

## 2 内容

## B ゲーム

- (1) ボール遊び・ボールゲーム及び鬼遊びについて、やさしい遊び方を身に付け、みんなでゲームが楽しくできるようにする。
- (2) 規則を守り、互いに仲よくゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。
- (3) ゲームを楽しむための簡単な規則を工夫することができるようにする。

## 3 内容の取扱い

- (2) 内容の「B ゲーム」に示す事項のうち、「鬼遊び」については、各年に分けて指導することができる。また、「鬼遊び」については、「走・跳の運動」や「歌や運動を伴う伝承遊び」と関連をもたせて取り扱うことができる。

## (備考)

- ・ボールゲーム、を加える。
- ・やさしい遊び方を身に付け、とする。

## 〔第3学年及び第4学年〕

## 1 目標

- (1) 各種の運動をめあてをもち、活動を工夫して楽しくできるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子をを整え体力を養う。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意して最後まで努力する態度を育てる。

## (3) 保健領域

## 2 内容

## B ゲーム

- (1) 次の運動の簡単な技能を身に付け、ゲームが楽しくできるようにする。
  - ア バスケットボール型ゲーム
  - イ サッカー型ゲーム
  - ウ ベースボール型ゲーム
- (2) 規則を守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。
- (3) 個人やチームのめあてをもち、簡単な練習やゲームをすることができるようにする。

## (備考)

- ・「ポートボール」「ラインサッカー」「ハンドベースボール」を「バスケットボール型ゲーム」「サッカー型ゲーム」「ベースボール



型ゲーム」に変更する。

### 3 内容の取扱い

- (2) 内容の「B ゲーム」に示す事項については、各学年に分けて指導することができる。なお、地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができる。

(備考)

- ・地域や学校の実態に応じて「バレーボール型ゲーム」などその他の運動を加えて指導することができるとする。

〔第5学年及び第6学年〕

#### 1 目標

- (1) 各種の運動のめあてをもち、活動を工夫して計画的に行うことによって、その運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子を整え体力を高める。
- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。
- (3) 体の発育と心の発達、けがの防止、病気の予防及び健康な生活について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む能力と態度を育てる。

#### 2 内容

##### E ボール運動

- (1) 次の運動の簡単な技能を身に付け、ルールを工夫したり、簡単な作戦を立てたりしてゲームができるようにする。

ア バスケットボール

イ サッカー

- (2) 互いに協力し、役割を分担して練習やゲームができるようにする。
- (3) 自分のチームや相手チームの特徴に応じた作戦を立て、計画的に練習やゲームができるようにする。

### 3 内容の取扱い

- (3) 内容の「E ボール運動」の(1)については、地域や学校の実態に応じてバレーボール、ソフトバレーボール、ハンドボールなどその他の運動を加えて指導することができる。

(備考)

- ・地域や学校の実態に応じて「ソフトボール」「ソフトバレーボール」「ハンドボール」などその他の運動を加えて指導することができるとする。

## 資料4 学習指導要領改善第二次案 (平成10年7月10日)

### 第1 目標

適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、仲間と仲よく進んで運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、体の調子を整えるなどの体ほぐしの実践を基盤としつつ、健康の保持増進のための実践力や体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

### 第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕

#### 1 目標

- (1) 基本の運動及びゲームを簡単なまじりや活動を工夫して楽しくできるようにするとともに、体の調子をよくし体力を養う。
- (2) 仲間と仲よくし、健康・安全に留意して運動をする態度を育てる。

#### 2 内容

##### B ゲーム

- (1) ボール遊び・ボールゲーム及び鬼遊びについて、やさしい遊び方を身に付け、みんなでゲームが楽しくできるようにする。

- (2) 規則を守り、互いに仲よくゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。

- (3) ゲームを楽しむための簡単な規則を工夫することができるようにする。

(備考)

- ・ボールゲーム、を加える。
- ・やさしい遊び方を身に付け、とする。

### 3 内容の取扱い

- (2) 内容の「B ゲーム」に示す事項のうち、「鬼遊び」については、各年に分けて指導することができる。また、「鬼遊び」については、「走・跳の運動」や「歌や運動を伴う伝承遊び」と関連をもたせて取り扱うことができる。

(備考)

- ・「鬼遊び」を各学年に分けて指導することができるとする。また、「鬼遊び」の取扱いを示す。

〔第3学年及び第4学年〕

#### 1 目標

- (1) 各種の運動のめあてをもち、活動を工夫して楽しくできるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子を整え体力を養う。

- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意して最後まで努力する態度を育てる。

#### (3) 保健領域

#### 2 内容

##### B ボール運動

- (1) バスケットボール型ゲーム、サッカー型ゲーム、ベースボール型ゲームについて、友達とルールを工夫し、簡単な技能を身に付け、ゲームが楽しくできるようにする。

- (2) ルールを守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。

- (2) 個人やチームのめあてをもち、簡単な練習やゲームができるようにする。

(備考)

- ・「ポートボール」「ラインサッカー」「ハンドベースボール」を「バスケットボール型ゲーム」「サッカー型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」に変更する。

### 3 内容の取扱い

- (2) 内容の「B ゲーム」に示す事項については、各学年に分けて指導することができる。なお、地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができる。

(備考)

- ・地域や学校の実態に応じて「バレーボール型ゲーム」などその他の運動を加えて指導することができるとする。

〔第5学年及び第6学年〕

#### 1 目標

- (1) 各種の運動のめあてをもち、活動を工夫して計画的に行うことによって、その運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子を整え体力を高める。

- (2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

#### (3) 保健領域

#### 2 内容

##### E ボール運動

- (1) チームの実態に応じた課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、ルールを工夫したり、簡単な作戦を立てたりしてゲームができるようにする。

ア バスケットボール

イ サッカー

ウ ソフトボール又はソフトバレーボール

(2) 互いに協力し、役割を分担して練習やゲームができるようにする。

(3) 自分のチームや相手チームの特徴に応じた作戦を立て、計画的に練習やゲームができるようにする。

(備 考)

・ウの内容を加える。

### 3 内容の取扱い

(3) 内容の「E ボール運動」の(1)については、地域や学校の実態によっては、ウは扱わないことができる。又、ハンドボールなどその他の運動を加えて指導することができる。

(備 考)

・地域や学校の実態に応じて「ソフトボール」「ソフトバレーボール」「ハンドボール」などの扱いを示す。

## 資料5 学習指導要領改善第三次案（平成10年10月21日）

### 第1 目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

### 第2 各学年の目標及び内容

#### 「第1学年及び第2学年」

##### 1 目標

(1) 基本の運動及びゲームを簡単なきまりや活動を工夫して楽しくできるようにするとともに、体力を養う。

(2) だれとでも仲よくし、健康・安全に留意して運動をする態度を育てる。

##### 2 内容

##### B ゲーム

(1) ボールゲーム及び鬼遊びについて、やさしい遊び方を身に付け、みんなでゲームが楽しくできるようにする。

(2) 規則を守り、互いに仲よくゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。

(3) ゲームを楽しむための簡単な規則を工夫することができるようにする。

##### 3 内容の取扱い

(2) 内容の「B ゲーム」に示す事項のうち、「ボールゲーム」については、2学年にわたって指導するものとする。

(備 考)

・「ボール遊び」を「ボールゲーム」に変更する。

#### 「第3学年及び第4学年」

##### 1 目標

(1) 各種の運動の課題をもち、活動を工夫して運動を楽しくできるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体力を養う。

(2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意して最後まで努力する態度を育てる。

(3) 健康な生活及び体の発育・発達について理解できるようにし、身近な生活において健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

### 2 内容

#### B ゲーム

(1) バスケットボール型ゲーム、サッカー型ゲーム、及びベースボール型ゲームについて、友達と規則を工夫し、簡単な技能を身に付け、ゲームが楽しくできるようにする。

(2) 規則を守り、互いに協力してゲームを行い、勝敗を素直に認めることができるようにする。

(3) チームの課題をもち、簡単なゲームを工夫することができるようにする。

(備 考)

・「ポートボール」「ラインサッカー」「ハンドベースボール」を「バスケットボール型ゲーム」「サッカー型ゲーム」「ベースボール型ゲーム」に変更する。

### 3 内容の取扱い

(2) 内容の「B ゲーム」については、地域や学校の実態に応じてバレーボール型ゲームなどその他の運動を加えて指導することができる。

(備 考)

・地域や学校の実態に応じて「バレーボール型ゲーム」などその他の運動を加えて指導することができるとする。

#### 「第5学年及び第6学年」

### 1 目標

(1) 各種の運動の課題をもち、活動を工夫して計画的に行うことによって、その運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、その特性に応じた技能を身に付け、体の調子を整え、体力を高める。

(2) 協力、公正などの態度を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

(3) けがの防止、病気の予防及び心の健康について理解できるようにし、健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。

### 2 内容

#### E ボール運動

(1) チームに適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身に付け、簡単な作戦を生かしてゲームができるようにする。

ア バスケットボール

イ サッカー

ウ ソフトボール又はソフトバレーボール

(2) 互いに協力し、役割を分担して練習やゲームができるようにする。また、勝敗に対して正しい態度がとれるようにする。

(3) 自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたり、ルールを工夫したりすることができるようにする。

(備 考)

・チームに適した課題をもって次の運動を行い、を加える。

・作戦を生かして、と変更する。

・ウの内容を加える。

### 3 内容の取扱い

(3) 内容の「E ボール運動」の(1)については、地域や学校の実態によっては、ウは扱わないことができることとし、ハンドボールなどその他の運動については加えて指導することができる。

(備 考)

・地域や学校の実態に応じて「ソフトボール」「ソフトバレーボール」「ハンドボール」などの扱いを示す。